

## 昔のひとのくらしのあとをさぐる (校区の主な遺跡)

### ■息長広姫御陵 (古墳時代/村居田)

第30代敏達天皇(538~585)の皇后・息長広姫の陵墓に指定されています。広姫は米原市近江地域を拠点とする息長真手王の娘で、孫の舒明天皇、その子の天智・天武天皇が即位し、息長氏の勢力拡大の大きな要因となりました。元禄9年(1696)に石室と家形石棺が発見されました。光運寺本堂脇にも古墳が1基あります。



息長広姫御陵

### ■すも塚古墳 (古墳時代/烏脇)

明治45年(1912)、近くの西元寺本堂の改築工事で土を取っていたところ、死者を葬る石室の石材と、土器(須恵器・土師器)、馬の道具、刀、金銀の飾りなどが出土しました(出土品は市文化財)。古墳が築かれたのは6世紀後半から7世紀初めのころで、復元すると、直径約30~40m、高さ約3.5mの円墳だったと考えられます。



すも塚古墳出土土器

### ■大原観音寺 (鎌倉時代~/朝日)

鎌倉時代に近江守護(いまの県知事)佐々木氏が四つの家に分かれたとき、大原の地域を与えられた佐々木重綱が「大原氏」を名乗り、本市場に館(住まい)を構えました。大原氏は幕府や将軍に所属する武士団として、大原荘の経済力をバックに鎌倉や京都で活躍しました。館跡には、大きなL字形の土塁と堀、一族の墓が残されています。



大原氏館跡の墓地

### ■横山城跡 (戦国時代/村居田・烏脇・朝日)

最初は、北近江を支配した京極氏の山城として築かれ、のちに、小谷城の浅井長政が本格的に作り直しました。長政と織田信長が対立すると、横山城は織田軍の攻撃で落城し、羽柴秀吉らが城を守りました。横山の最高地点を北城、そこから分かれる南尾根上に南城があります。北近江を一望できる絶好の位置にあります。



横山城跡から眺め

### ■石造五輪塔 (中世/小田/市文化財)

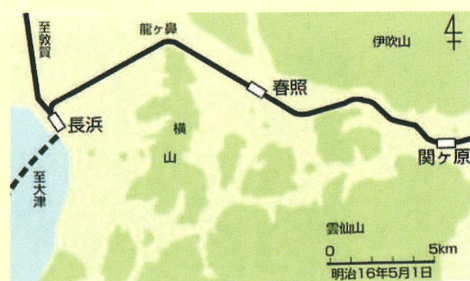
妙覚寺の境内にあり、文永2年(1265)、正安2年(1300)、永享7年(1435)の年号や「八田部共義」の名前が刻まれています。八田部氏は、大清水泉神社の釣鐘を造った小田の鋳物師です。



石造五輪塔

### ■大原を汽車が走っていた! 明治16年鉄道開通

長浜と関ヶ原を結ぶ関ヶ原線は、新橋・横浜間(明治5年)、京都・神戸間(10年)、京都・大津間(12年)、敦賀港・長浜間(15年)に次いで、日本でいち早く開業した線路です。琵琶湖を経由して太平洋と日本海を結び、東京へつなげる計画です。しかし、大原から春照に向かう路線は坂が急だったために、明治22年米原から長岡を経由する線路が開通、その後、レールが撤去され道路になりました(のちの国道365号)。



### 【資料館を利用しよう!】

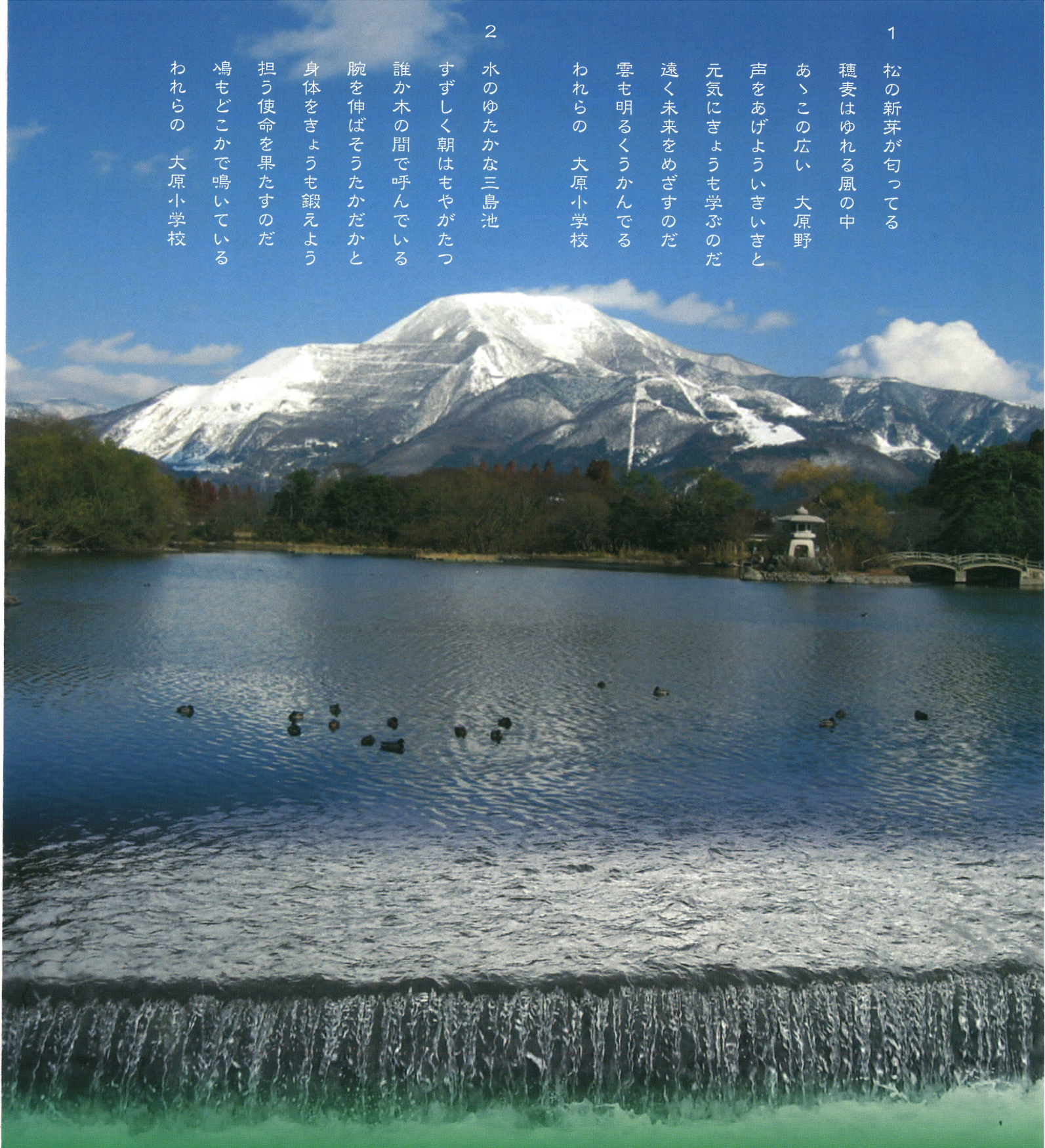
#### 伊吹山文化資料館 (米原市春照77)

開館時間: 9:00~17:00  
休館日: 毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始  
入館料: 一般200円、小人100円  
※団体割引あり



1 松の新芽が匂ってる  
穂麦はゆれる風の中  
あゝこの広い 大原野  
声をあげよういきいきと  
元気にきょうも学ぶのだ  
遠く未来をめざすのだ  
雲も明るくうかんでる  
われらの 大原小学校

2 水のゆたかな三島池  
すずしく朝はもやがたつ  
誰か木の間で呼んでいる  
腕を伸ばそうたかだかと  
身体をきょうも鍛えよう  
担う使命を果たすのだ  
鳴もどこかで鳴いている  
われらの 大原小学校



### 学校のまわりの宝物②

## 大原小学校区

【校区】

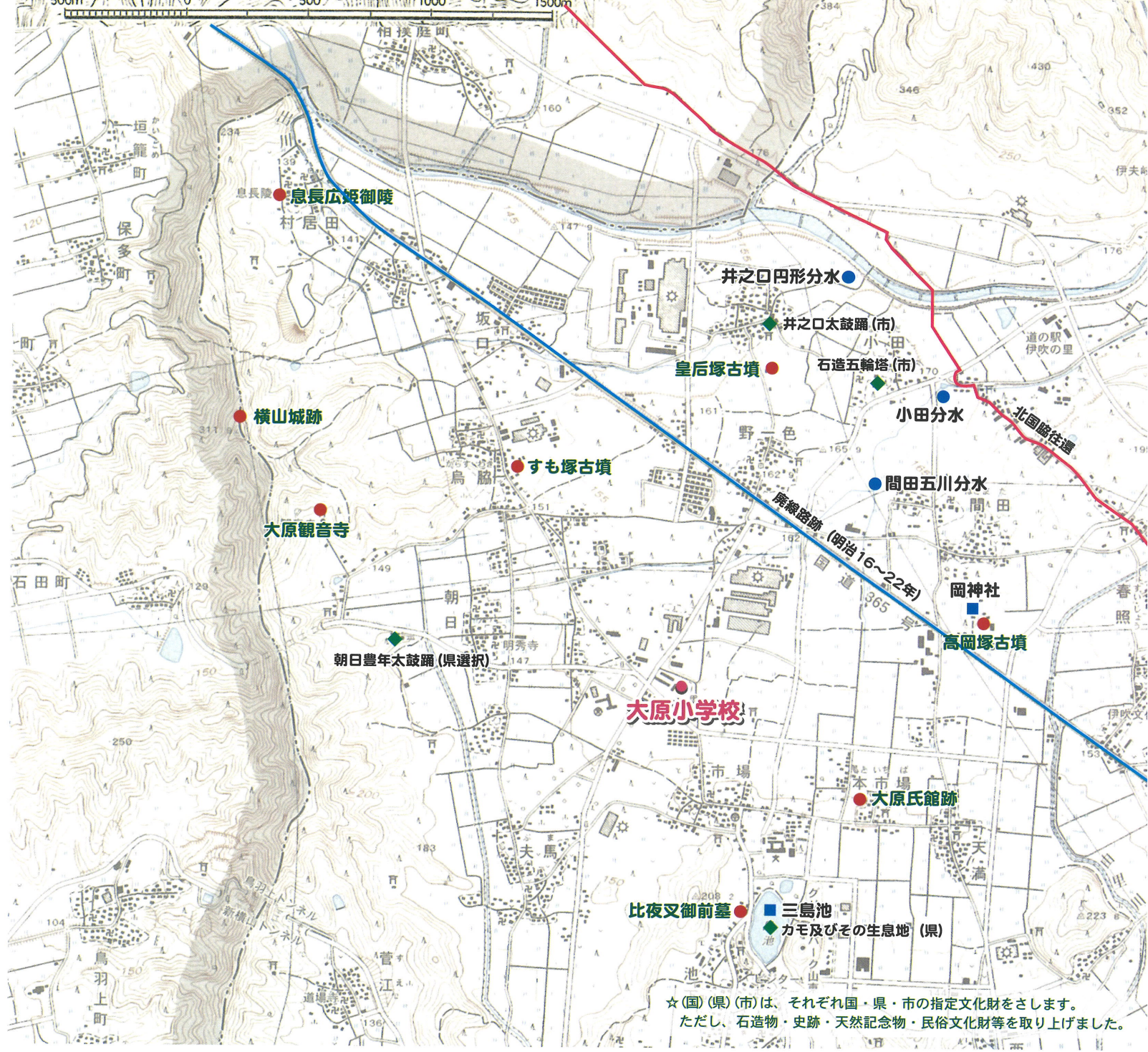
市場、夫馬、朝日、烏脇、坂口、村居田、井之口、野一色、小田、間田、天満、本市場、池下、山東桜ヶ丘、すみれヶ丘、平和台、グリーンタウン坂口、ヴィラ・ルシオール、グリーンヒルズ・朝日

# 校区のようす

大原小学校区は、米原市の中央北部にあり、姉川中流の左岸に各集落があります。校区の東側は、小田から野一色までは、舌のように伸びた丘の上に集落があり、ここから南へ、土地はゆるやかに傾斜しながら水田が広がります。西側は横山の山麓に集落がならびます。古くは「大原野」とよばれ、白雉元年(650)に、姉川から水を引いた「出雲井」という農業用水路が開かれたと伝えられています。また、鎌倉時代中頃に、本市場に館(住まい)を構えた大原重綱が、姉川に水を引くために川をせき止めた井堰を作って水田を広げたという記録もあります。校歌に歌われる「三島池」も、大原氏が下流の水田のために造りました。校区はかつて「大原荘」とよばれていました、その守り神が岡神社で、雨を願う太鼓踊が合同で踊られるなど、水を大切にしてきた地域です。

# 校区のあゆみ

岡神社の周辺は、米原市では古墳が集まっている地域です。神社の境内では昭和59年に死者をおさめた横穴式石室をもつ高岡塚古墳が発掘されました。このほか、唐古塚古墳、番庄塚古墳、はさまたいしゃの間田廃社古墳、日御子社古墳など、6世紀後半から7世紀初頭の古墳群が、小高い丘の上にあり、大原野を開拓した古代の有力者の古墳です。このほか、井之口の皇后塚や烏脇のすも塚、村居田には敏達天皇のお妃・息長広姫の古墳があります。鎌倉時代中頃からこの地を治めた大原氏の館跡や、大原氏が伊吹山から降ろし、石田三成とゆかりが深い観音寺。織田信長が、浅井長政の小谷城を攻めたときの基地となった横山城など、鎌倉から戦国時代の遺跡があります。



比夜叉御前の墓

## 大原小アラカルト

### 【自然】三島池のカモ(県文化財)と比夜叉御前

マガモなどの水鳥の越冬地として知られ、昭和32年(1957)、大東中学校科学クラブの研究のなかで、マガモが自然繁殖していることをつきとめ、三島池が越夏カモの南限地であることを発見しました。鎌倉時代、大原重綱が、姉川の伏流水を利用して田んぼに流すため池として人工的に造りました。重綱は、伊豆(静岡県)の三島の神を祀り、伊吹山を富士山に、池を駿河湾に見立てたといいます。しかし、水がたまらなかったことから、比夜叉という女性を水の神にささげました。

### 【まつり】太鼓踊

水の神であり、何本もの大河の水源である伊吹山にたいし、米原市の山麓の村々ではいまでも9カ所で雨乞い御礼の太鼓踊りが踊られています。水利が悪い扇状地や丘陵地でくらす人々の水への祈りと感謝の姿が、いまでも引き継がれています。校区内では、朝日(国文化財・日本遺産)や井之口(市文化財)などが共同で岡神社に踊りを奉納しました。

### 【社寺】大原観音寺(朝日)

もと伊吹山にあった観音護国寺が、大原氏の保護を受け、正元年中(1259~60)にいまの場所に移りました。昔の観音寺には、本堂を中心にして東と西に23のお寺があり、さらに法輪寺10坊がある大きな寺院でした。各地から伊吹山を訪れた修行者の宿坊だったと考えられます。石田三成と羽柴秀吉の出会いの地でもあります。本堂・鐘楼・惣門は重要文化財です。

### 【郷土の先人】林武右衛門(朝日)

ロク口仕掛けの機械を考案して「夫馬鳶」の名を全国に広めました。



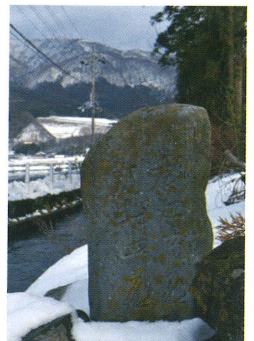
朝日豊年太鼓踊



大原観音寺



刀の鐺の銀象嵌(すも塚古墳)  
赤外線写真で、溝に銀の針金を打ち込んだ勾玉文が見つかりました。



北国脇往還道標(小田)



大原観音寺常夜灯



三島池とカモ



出雲井  
姉川の水を大原野を潤す用水  
五川分水



小田分水



間田五川分水



井之口円形分水